

# 第92回『農業経営者』セミナー

## 「ロシアのウクライナ侵攻でも食料不足が起きない5つの理由」

▶ 10月6日

(オンライン配信)

再始動した『農業経営者』セミナーの第三弾のテーマは本誌6月号の特集で取り上げた「ロシアのウクライナ侵攻でも食料不足が起きない5つの理由」である。本誌の元・副編集長で、農業ジャーナリスト・作家の浅川芳裕さんに講演いただいた。

農業界は収穫繁忙期のため、19時開始のナイトセミナーを設定し、参加者は30名弱だった。

### 世界的に食料は足りている!?

コロナ禍が落ち着いたかと思いきや、ロシアのウクライナ侵攻が勃発し、世界情勢が揺さぶられた2022年。にわかには世界の需要と供給、物流が影響を受け、食料安全保障が政治課題として騒がれることとなった。そうした現状について、日々、世界情勢を追いかけて、世界と日本の農業・食料・環境問題の分析を得意とする浅川さんは、どう捉えているのか。参加者の関心はそこに注がれていたように思う。

自己紹介や近況に触れた後のイントロは、故・安倍晋三元総理の外交戦略を中心にその功績を解説するところから始まった。現在、

山口県に拠点を置いている縁もあるようで、昨年ヒヤリングを求められた際の対話内容も含まれた。本題の入り口は、「食料不足は起こるか？」の問いかけだった。

世界的な食料不足を煽る報道も散見される昨今だが、世界の農産物の生産状況や消費・在庫等のグラフを示しながら解説してくれた。ロシアのウクライナ侵攻前と侵攻後で、食卓や農業現場で感じている変化は、当面は続くとの見通しという。農産物生産の能力向上は著しく、世界全体を眺めても農地余りが拡大するのは日本と数字的にも同程度らしい。食料の過不足をどの物差しで考えるかなど、情報の読み方が提示された。

日本国内には断片的にしか伝わらないウクライナの農業現場については、現地の情報を交えて紹介された。戦禍で起きているリアルな出来事から懸命に農業生産の使命を果たす農業経営者の逞しさが伝わってくる一方で、悲惨な状況には誰もが言葉が見つからなかった。

【編集部より】今後も『農業経営者』セミナーは、オンライン配信にて定期的に開催予定。開催テーマの提案は編集部まで。ご興味のある方はぜひご参加ください。

### ■第93回『農業経営者』セミナーのご案内

## 遺伝子組み換えやゲノム編集とどう向き合うか (仮題)

開催日：11月9日(水) 18時00分～20時00分  
(Zoomによるオンライン配信)

講師：山根精一郎氏

#### 【講師プロフィール】

(株)アグリシーズ代表取締役社長。1947年生まれ、東京都出身。東京大学理学部生物学科植物課程卒業、東京大学大学院農学部植物病理学博士課程修了。76年に日本モンサント(株)に入社し、その後、遺伝子組み換え技術の第一人者として第一線で活躍。02年に同社の代表取締役社長に就任。17年3月に同社を退職し、同年4月に(株)アグリシーズを設立。

日本モンサント(株)で代表取締役を務めるなど、遺伝子組み換え技術の最先端を走りながらも、同時に反対派の矢面に立ち続けてきた山根精一郎氏。今年、著書『もしもがんを予防できる野菜があったら「遺伝子組み換え食品」が世界を救う』を上梓した。農業・食品・医療・環境などの分野において遺伝子組み換え技術が大きな可能性を持つと感じ、その技術を通じて世の中に貢献したいとの思いで活動される同氏に講演いただく。

遺伝子組み換えに賛成派の方も、少し距離を置いて静観されている方も、反対派の方も、専門的な小難しい話が苦手という方も、双方向の対話形式のセミナーなので、ご参加いただけましたら幸いです。

申込はこちら▶ <https://farm-biz-seminar93.peatix.com>

